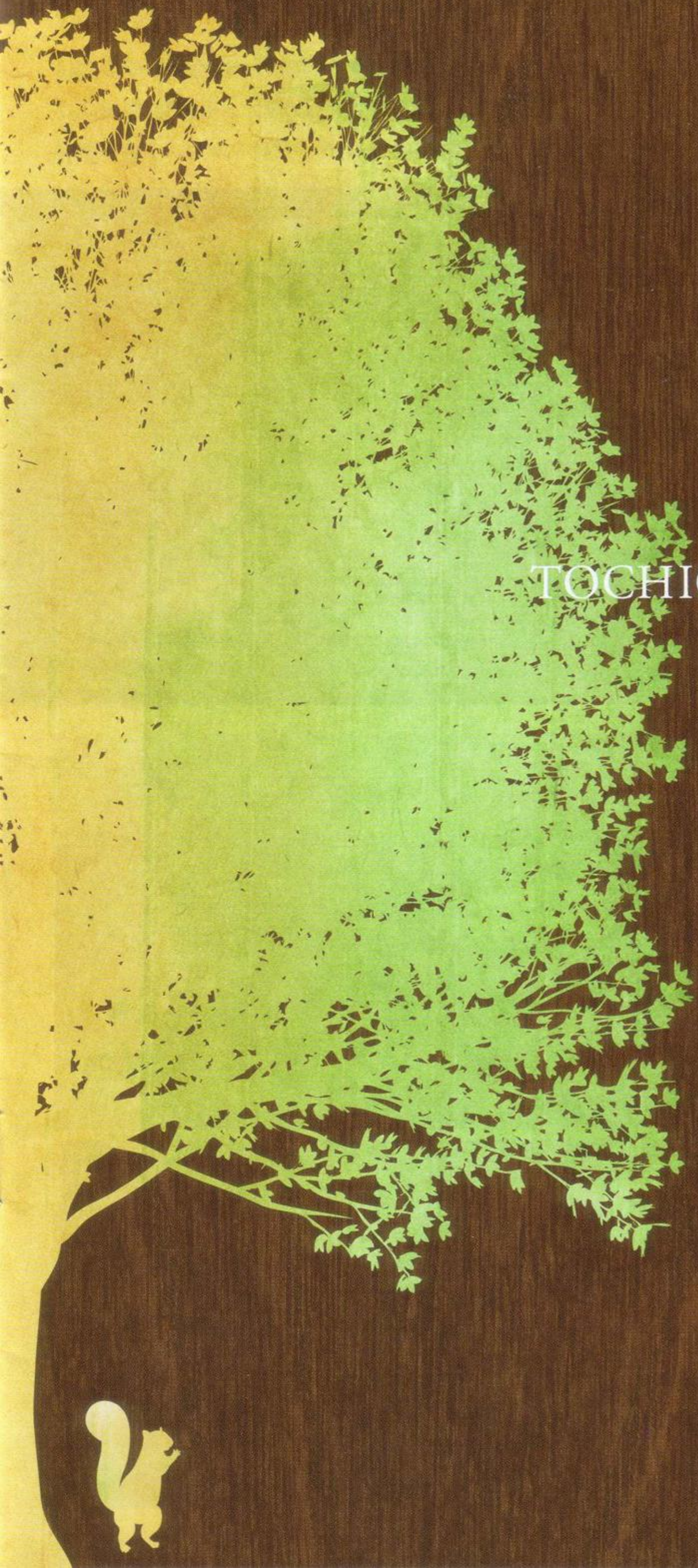


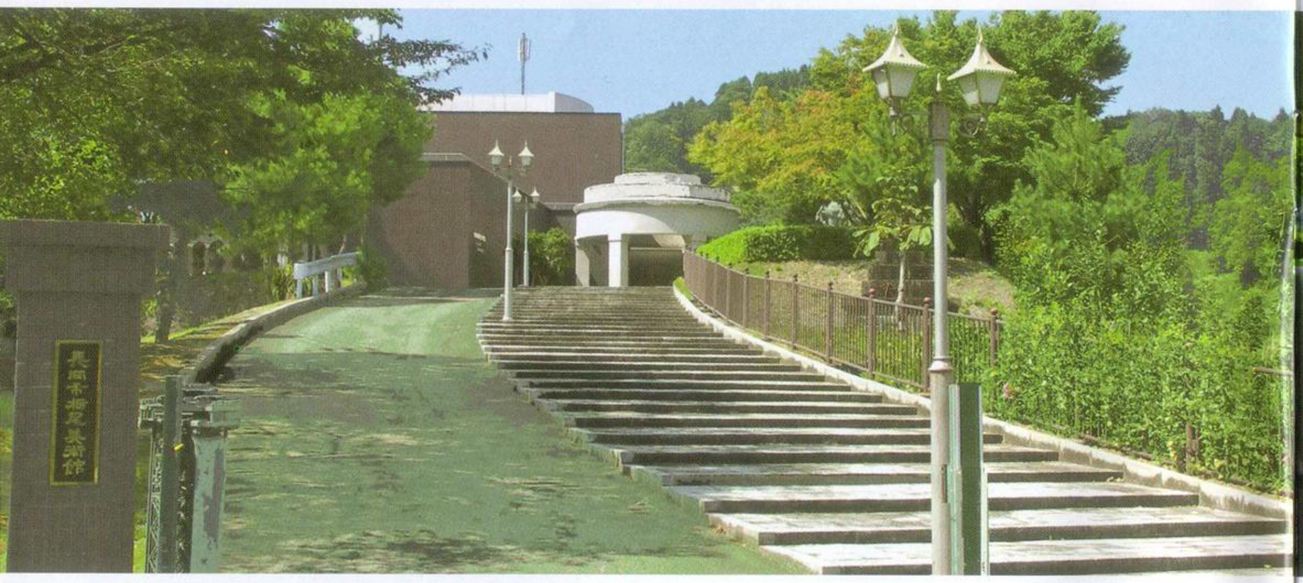
TOCHIO ART MUSEUM

長岡市栃尾美術館

ようこそ、栃尾美術館へ。

Welcome to Tochio art museum

長岡市栃尾美術館は、旧栃尾市制40周年を記念して、上杉謙信公ゆかりの栃尾城址を借景に市街地が一望できる高台の上に建てられた美術館です。周囲には秋葉神社と常安寺、また町中(まちなか)には雪国ならではの雁木が姿を残しています。豊かな自然と古くから受け継がれてきた文化、そして地域の人々の営みに支えられています。



市民ギャラリー

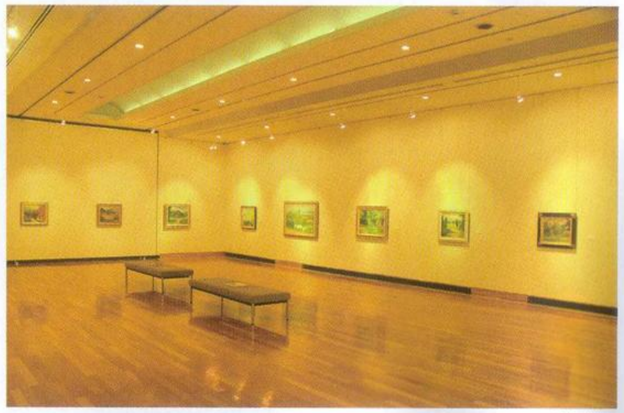
エントランスホール

施設紹介

【展示室I・II】企画展と、ふるさとゆかりの作家の作品を中心とした美術館の所蔵品展などを開催しています。

【ギャラリー】窓から見える四季折々の庭園と自然光が美しい展示スペースです。作品展示・発表を目的に市民が無料で利用できます。

【アトリエ】制作等の目的により、市民が無料で利用できます。また年間を通じて各種講座やワークショップなどを開催しています。



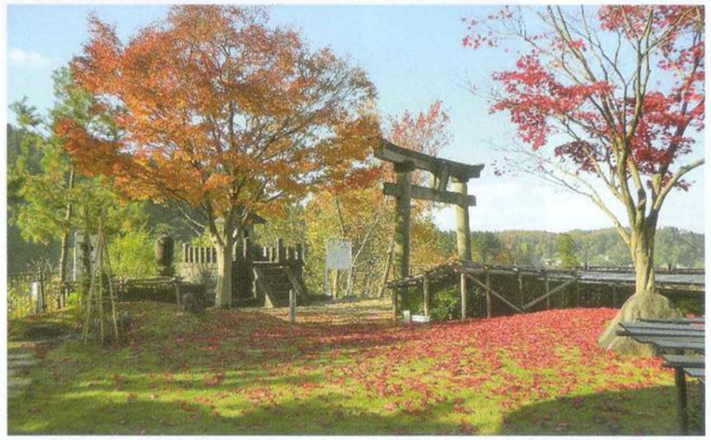
展示室II

前庭でほっと一息

The front garden of an art museum

美術館の建つ通称七曲(ななまがり)と呼ばれる高台を登ると、美術館の前庭が見えてきます。
お天気の良い日は、心地よいそよ風を感じながらひと休みしませんか。
栃尾城址と市街地の風景、四季折々の自然をお楽しみください。

回廊から見た前庭



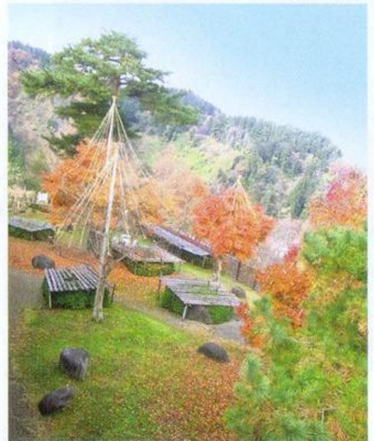
美術館のもみじが色づく秋、眼前の鶴城山もいっそう鮮やかな紅葉に包まれます。雪囲いを終え、前庭も冬支度が整います。

謙信像としだれ桜

平成7年の開館時、栃尾城址を背景に、颯爽とした騎乗姿の謙信像が建てられました。春にはしだれ桜に彩られます。

炉開き(写真は10月)

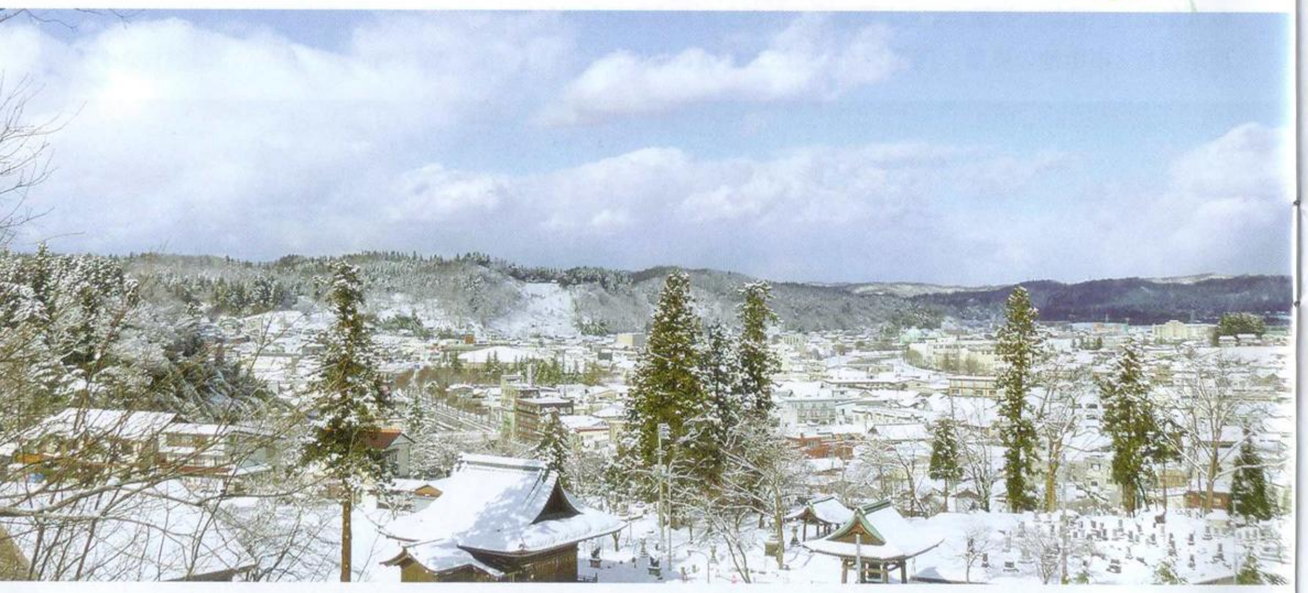
ユキツバキと茶の自然交配種で、秋と春にちいさな桃色の花を咲かせます。



美術館からみる栃尾の風景

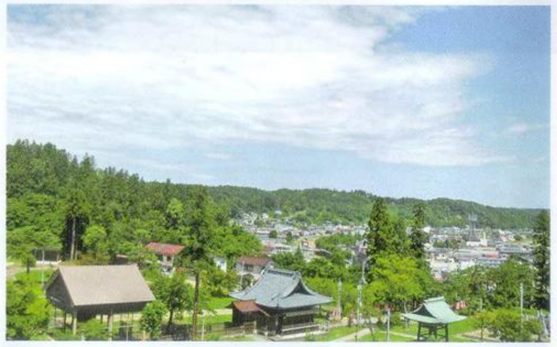
The view from an art museum

美術館のテラスからは栃尾の街が一望できます。



北 秋葉神社と栃尾の市街地

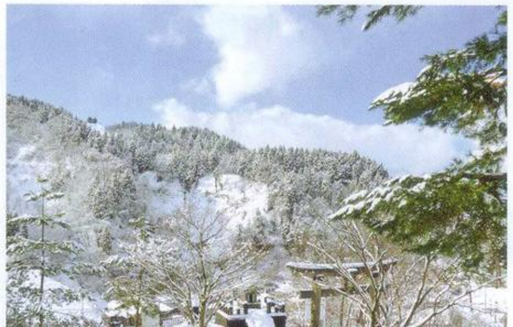
美術館の前庭から見る栃尾の風景は、周囲を囲む豊かな山林と、河川に沿った町並みが特長です。向かって左に見える西谷川と右に見える刈谷田川が町の中央で合流します。
美術館の眼前には火防の神として有名な秋葉神社があります。境内は公園となっており、栃尾城址を背にした謙信公の像、句碑などがあり、憩いの場として親しまれてきました。公園内の百二十七段の石段は、上杉謙信によって創建された古刹、常安寺へと続きます。



西 謙信ゆかりの栃尾城址を臨む

栃尾城址【鶴城山】(新潟県指定文化財)

栃尾城が築城されていた鶴城山(かくじょうやま)は標高227.7m。地元の人は親しみをこめて城山(しろやま)とよんでいます。美術館の前庭から山頂に見える二本の木が本丸跡の目印です。本丸跡へは栃尾表町、栃尾山田町などから登ることができ、晴れた日には守門岳や佐渡、弥彦山などを眺めることができます。



上杉謙信(長尾景虎)は14歳から6年間この栃尾城で過ごしました。栃尾城は、険しい地形を利用してつくられた中世山城の一つです。大空壕や千人溜り、馬場跡などがあり、いまでも戦国時代の山城の遺構をみることができます。

三十三所観音

美術館とその周辺

An art museum and the outskirts

三十三所観音・謙信廟・謙信公像

【三十三所観音】

西国三十三所巡りの各寺院の本尊仏を石仏にしたものです。かつて秋葉神社から美術館まで続く七曲の坂道に並んでおり、参拝することで三十三所巡りの代りとされました。現在は美術館の敷地内に移されています。

門察和尚の墓

【謙信廟と門察和尚の墓】

美術館の敷地内には大正4年、山形県米沢市の上杉家より分霊して祀った御廟所があります。謙信廟の左側の碑は謙信が栃尾に在城した時代の学問の師、門察和尚の墓と言われています。門察和尚は瑞麟寺5世として常安寺を開山しました。背景には栃尾城址、本丸跡が見えます。

謙信廟

【ふたつの謙信公像】

秋葉公園と美術館、徒歩5分以内にふたつの謙信公像があります。どっしりとした風格ある座像と、颯爽と太刀を掲げる騎乗姿、いずれも背景に栃尾城址を眺めることができます。赴きの異なるふたつの謙信公像を見比べてみませんか。

金子直裕制作(1965年建立)の像。台座の謙信公の文字は時の大蔵大臣、田中角栄氏によるもの。

米納宗宏制作(1995年建立)の像。台座の上杉謙信の文字は石坂浩二氏によるもの。

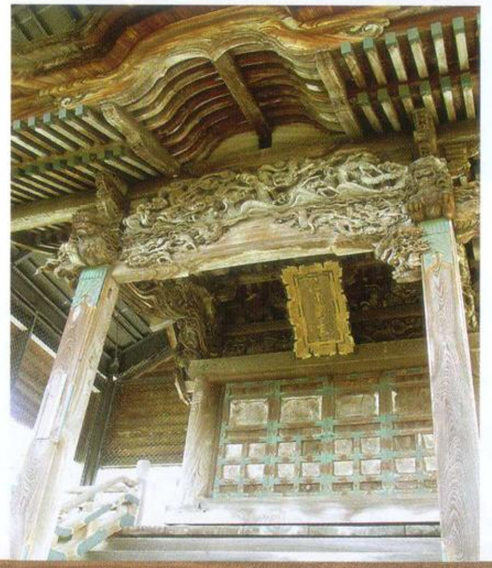
美術館とその周辺

An art museum and the outskirts

秋葉神社　～秋葉三尺坊拝殿と奥の院～

美術館から坂を下ると、眼前に広がる秋葉公園内に秋葉神社があります。天文二十（1551）年、上杉謙信は常安寺の守護神として日本総本廟越後秋葉三尺坊大権現を勧請しました。秋葉神社は火防の神として全国に多くの神社や末社をもつ秋葉三尺坊威徳大権現を祀った神社で、その命日といわれる7月24日には毎年火祭りが開かれ、火渡りが行われます。

秋葉三尺坊拝殿



【奥の院と石川雲蝶】

西側に建つ秋葉三尺坊奥の院では、土台から破風に至るまで、石川雲蝶と熊谷源太郎が8年の歳月をかけたという彫刻が施されています。東側には烏天狗の酒宴、南側には大天狗の前で烏天狗と若武者が武術の試合を行っており、西側には烏天狗の敗北の図が表現されています。
<長岡市指定文化財>

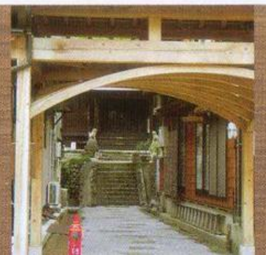
ちょっと足をのばして‥

石川雲蝶の彫刻は、栃堀の巣守神社に隣接する貴渡（たかのり）神社でも見ることができます。養蚕の過程や、繭を煮て、機を織る光景など、紬ができるまでの一連の様子が表現されています。
<長岡市指定文化財>美術館から栃堀方面へ車で約15分。

9月には貴渡神社大祭が行われます。

雁木の町並み

栃尾の商店街は雁木造りといわれる雪国特有のたたずまいを残しています。町屋の庇を伸ばして柱で支えた雁木の下は、雪国の生活にはなくてはならない通路として、また憩いの場として親しまれてきました。特に除雪がままならなかった時代、町が雪にすっぽりと覆われると、このわずかな空間が通り道となり、向いの雁木どうしを雪のトンネルで繋いでいたのです。
平成9年より、「雁木づくりプロジェクト」がスタートし、建築や街づくりを学ぶ学生たちと住民が協力し、雁木の町並みの再生を目指した活動が続けられています。栃尾表町ではこの活動によって、改築された雁木や屋号看板のデザインを楽しむことができます。また、各地には昔ながらの商店が点在しています。地酒、味噌、しょうゆ、お菓子、そして油揚げなど、栃尾ならではの味を探して歩いてみませんか。5月上旬には「とちお町めぐり雁木あいぼ」が開催され、出店や伝統技術体験などの催しが行われています。

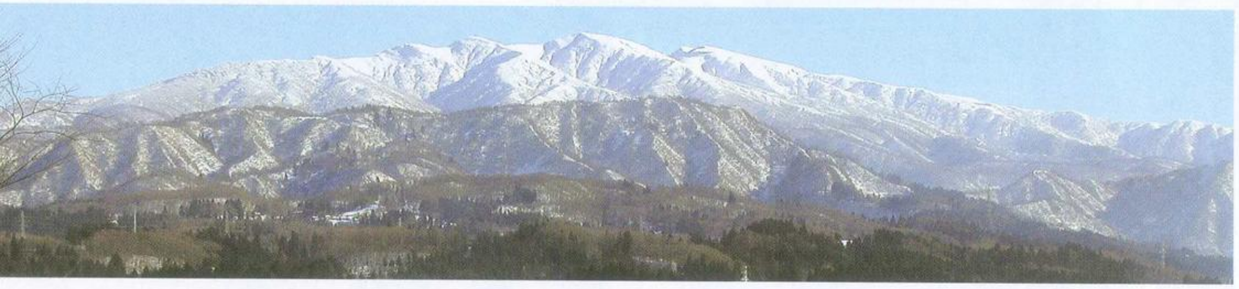


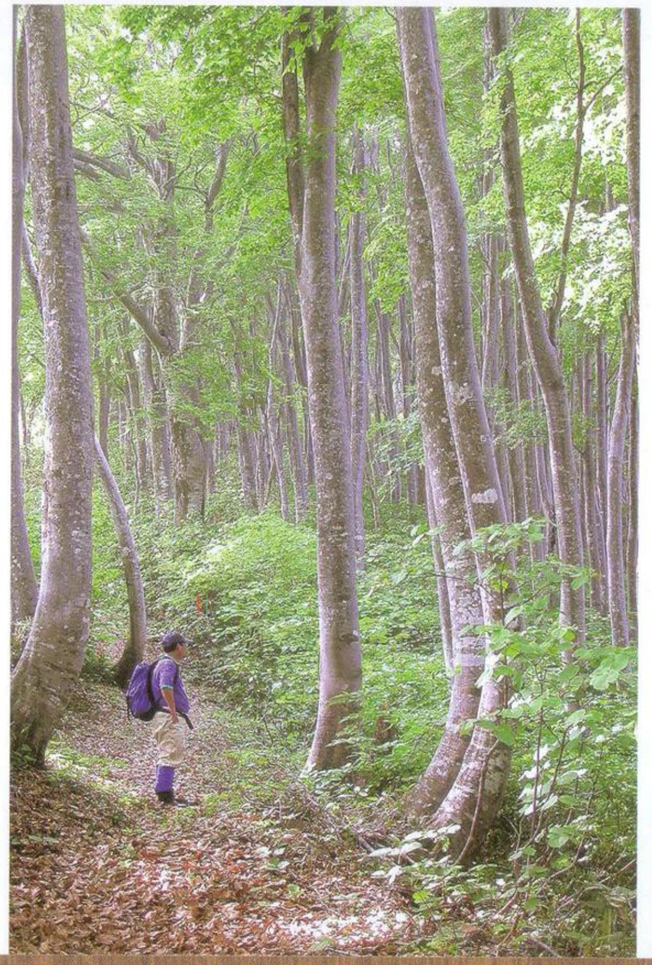
栃尾城址への登り口も‥

町の中には、栃尾城址（鶴城山）への登り口となるふたつの神社があります。左は大手道と言われる「諏訪神社」（表町）の登り口。右は「石動神社」（表町）下手の登り口。この他、車では栃尾山田町から細い林道を登るルートがあり、本丸跡へ最短距離となる駐車場があります。

美術館コレクションにみる栃尾

Tochio seen on an art museum collection



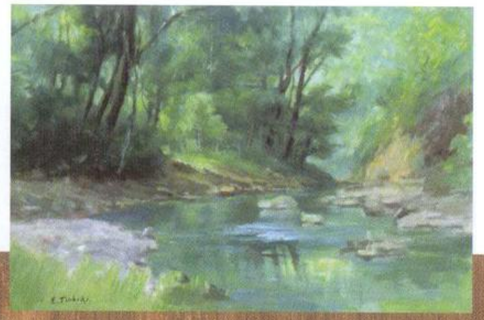


栃尾から守門岳への登山ルートのひとつ「入塩川コース」の雨晴（あばらせ）では美しいブナの原生林が広がります。山開きは毎年5月。

「森立峠から見た守門山」

椿 悦至（1914～2003）1993年
油彩・キャンバス／65cm×80cm

豊かな自然の恵みをもたらす守門岳は、栃尾の風景に欠かせない美しい名峰です。少年時代を栃尾で過ごした椿悦至（つばき・えつし）は故郷を思わせるみずみずしい色彩の風景画をよく描き、晩年は太平洋美術会長として活躍しました。「森立峠から見た守門山」は柔らかな春の陽光に包まれた、栃尾らしい雪解けの風景です。



「源流（新山）」

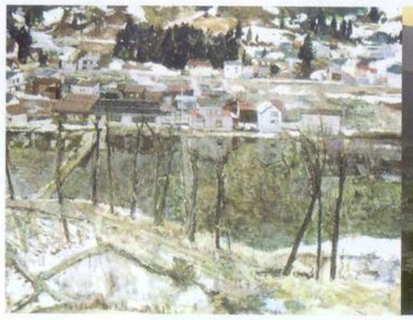
2000年／油彩・キャンバス
53cm×73cm

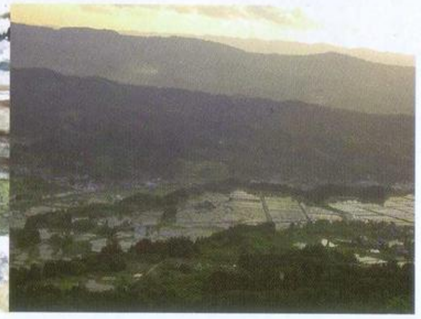
同じく椿悦至の作品で、西谷川の上流、新山（あらやま）の一角で描いたものです。栃尾地域は水源となる豊かな森林の山々に囲まれており、刈谷田川、西谷川、塩谷川の三本の大きな川が流れています。この豊富な水は古くから農業や産業に活かされてきました。守門岳から流れる刈谷田川の上流には現在でも蛍やカジカガエルが生息しています。

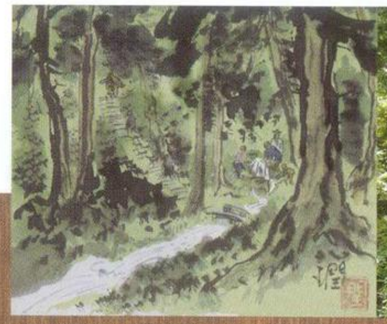
「田園浅春」

瀧 澤　徳（1939～）1995年
油彩・キャンバス／132cm×162cm

日展、光風会で活躍する瀧澤徳（たきざわ・のぼる）は栃尾の雪景色を多く描いています。栃尾には美しい水田の風景が数多くありますが、特に山間に作られる棚田のうちの七ケ所が、新潟県が選ぶ「棚田のある風景」に選ばれています。







「杜々の森」

富川潤一（1907～1995）1991年／絹本彩色／24.2cm×27.2cm

栃尾出身の洋画家で日展、光風会展などで活躍した富川潤一（とみかわ・じゅんいち）は日本画の研究のため京都に移住した経験を持ち、晩年は新潟市に定住、「市場・浜焼き」シリーズを中心とする新潟の風景を多く描きました。「杜々の森」は水汲み場を描いた作品ですが、現在の様子（写真右）を比べると、当時とほぼ同じ景観が保たれていることがわかります。

美術館コレクションにみる栃尾

Art museum collection

「青面金剛」 1996年/和紙にプリント/38cm×27cm(左)
「馬頭観音」 1997年/和紙にプリント/40cm×30cm(右)
鈴木孝枝(1946〜)

写真家、鈴木孝枝(すずき・たかえ)は撮影した石仏を独自の技法で、柏崎市(旧刈羽郡)高柳町の門出手漉き和紙に印画しています。石仏の里とも言われる栃尾では、多くの道祖神やお地蔵様に出会うことができます。山あいの地で何百年もの間、庶民の心を支えてきた石仏はそれぞれ表情が豊かで、道行く人をあたたかく見守っているようです。

石仏の里 栃尾

栃尾地域は石仏の里として知られており、その種類は100種類にもおよぶといわれます。道祖神は双体型だけでも100体以上、庚申塔は300体以上が確認されています。また、国内でも珍しいとされる異型の石仏なども存在しています。

ほだれ神社(下来伝)

ひとつの石に仲良くならんだ道祖神の集積地です。また下来伝では毎年3月にほだれ祭りが開かれ、子宝や良縁、家内安全、五穀豊穣などが祈願されます。

南部神社(森上)

猫又権現ともよばれ、蚕を狙うねずみ除けの神様が祀られていると言われています。南部神社の社頭には狛犬とともにこの猫の石仏が建てられています。毎年5月8日には石段の両側に百八灯のろうそくが奉納され、幻想的な雰囲気の中、社祭が催されます。

南部神社の境内にたたずむ木曜星神の石仏。

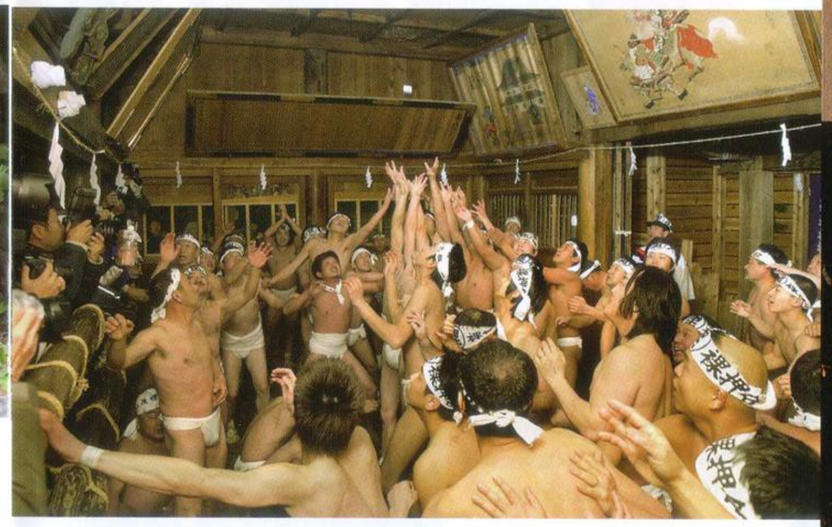
右は南部神社の社号碑。長岡藩栃尾町検断職を務めた富川大塊(とみがわ・たいかい 1799−1855)が嘉永7年(1854)に揮毫したもの。大塊の作品は当館でも所蔵しています。

「祭の日」 今井厚(1939〜)
1999年制作 油彩・キャンバス/130cm×130cm
栃尾出身の洋画家、今井厚(いまい・あつし)は大名行列など、栃尾の祭りを多く描いています。

【栃尾のまつりいろいろ】

栃尾には一年を通じて個性豊かな祭りや風物詩があり、日々の生活に彩りと活気を与えています。五穀豊穣や無病息災を願うこれらの祭りは先人から大切に受け継がれてきました。また、栃尾の風土や特産品を生かした近年の催し物も、地域に新たなにぎわいを生み出しています。

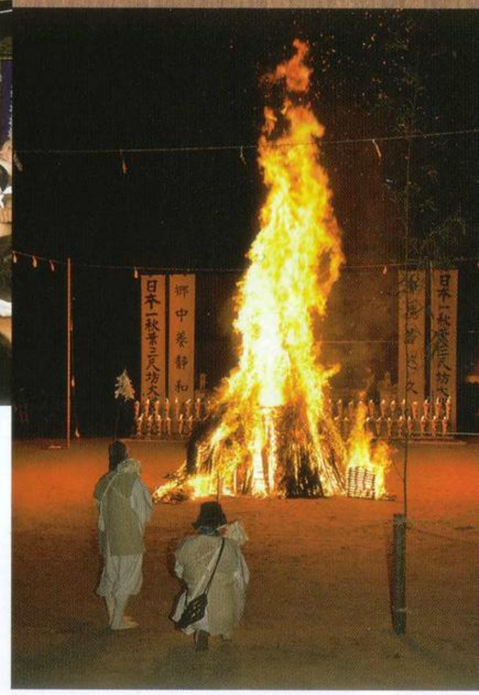
1月 岩戸舞(葎谷)
さいの神(各地)
2月 裸押合大祭(栃堀)
とちお遊雪まつり(道の駅R290とちお)
3月 ほだれ祭 (下来伝)
4月 栃堀巣守神社春季大祭(栃堀)
諏訪神社春季大祭(表町・諏訪神社)
5月 てまりまつり(谷内・常安寺)
百八灯(森上・南部神社)
守門山開き
7月 うま市(谷内)
秋葉の火祭り(秋葉神社)
8月 石積み(各地)
とちお祭(市街地)
9月 謙信公祭(秋葉神社)
10月 あぶらげまつり(杜々の森・西中野俣)
11月 来伝天神合格祈願祭(上来伝)
12月 寒精進(塩新町)



巣守神社裸押合大祭(巣守神社/栃堀)

上杉謙信が信仰した毘沙門天を祀った巣守神社の祭りで豊作祈願が始まりといわれています。長さ1m、重さ30kgのろうそくを先頭に裸の男達が本堂になだれ込み、「サンヨ(撒与)サンヨ」「押ッセ、押ッセヤイ」の掛け声で押し合い、福札を奪い合う祭りです。

2月第2土曜日 問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195)



秋葉の火祭り(秋葉神社)

火伏せ(火防)の神様として全国に信者をもつ秋葉三尺坊(威徳)大権現のお祭りです。三尺坊の遺徳をたたえ、命日にあたる7月24日の夜に行われます。

ほら貝の音とともに祭りが始まり、結界中央の祭壇に灯がともされます。炎が静まる頃、善男善女が無病息災、家内安全を願い合掌して火渡りを行います。

問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195)

諏訪神社春季大祭・大名行列

諏訪神社の大名行列には大名の姿はなく、神官、御神輿を中心に、左右大臣、鉄砲・弓などのほか、天狗、神楽など神事と公達、武士、庶民が行列となり、市街を練り歩きます。

総勢600余名、長さ300mを超える大名行列が、市街地を巡り、諏訪神社に戻ると神輿、太鼓などの「舞い込み」が始まり、祭りを締めくくります。大祭の前夜には谷内通りにたくさんの露店が並びます。

問い合わせ・栃尾観光協会(0258-51-1195)

美術館コレクションについて

About an art museum collection

栃尾美術館ではふるさとゆかりの作家の作品を中心に、絵画、彫刻、工芸、書などを収蔵しています。
資料を含めるとその数は2,592点（平成24年1月現在）。一年に3回程度の所蔵品展を行い、
その都度、テーマに沿った作品を選んで展示しています。ここまで「美術館コレクションにみる栃尾」で、
紹介しきれなかった、ふるさとゆかりの作家の一部を紹介します。

風間 四郎 かざま・しろう

1902～1992

栃尾に生まれ、14歳で上京、商業美術の草創期に活躍した多田北烏に入門。29歳で独立した後、百貨店のポスター、広告などを手がける。またトッパン（現フレーベル館）、講談社、小学館などの絵本の表紙や挿絵のほか、1948年からは月刊誌「小学一年生」月刊「よいこ」「ベビーブック」「マミィ」（小学館）の表紙絵を担当、1970年末まで継続して手がけた。これらの原画を中心に、ポスターデザインなど、資料を含めると当館で最も数の多いコレクションとなる。

新宿伊勢丹開店ポスター 1933年
107cm×79.5cm

新宿伊勢丹ポスター 1935年
107cm×79.5cm

慈母観音 1993年
73cm×61cm

桐生 照子 きりゅう・てるこ

1937～

栃尾出身、神奈川県在住。光風会、日展で活躍し、ぶどう畑などをモチーフにみずみずしい色彩の油彩画を描いている。2003年には紺綬褒章受章。現在、日展評議員。

ぶどう園 1995～98年
油彩・キャンバス／130cm×162cm

多田 清虹 ただ・せいこう

1937～

栃尾の里山で集めた樹皮や落葉を素材とした独自の貼絵「美里絵（みさとえ）」を制作する。日本手工芸美術展ほか海外でも発表を行う一方で、地域の子どもたちに実技指導を行い美里絵の魅力を伝えている。

齋藤 三郎 さいとう・さぶろう

1913～1981

栃尾に生まれ、高校卒業後、近藤悠三に入門、富本憲吉に師事。24歳で独立した後、京都、神奈川で作陶活動を行う。33歳で高田市（現上越市）へ転居、上越地域の文化振興に尽力した。

辰砂窓絵椿文面取壺　1970年
高さ23cm×直径23cm

所蔵作家

椿 悦至、富川 潤一、堀 愛泉、
風間 四郎、齋藤 三郎、桐生 照子、
多田 清虹、三輪 晁勢、増井 和弘、
など

栃尾の美 ～とちおてまり～

養蚕や機織りがさかんだった栃尾では、
クズ繭の糸や機織りの残り糸を利用して、
古くから、祖母や母親の手により、子どもたちのために
手かがりてまりが作られてきました。
栃尾のてまりは中に七種の実が入り、
振ると素朴な音がすること、また
100以上もある模様の豊富さが特徴といわれ
伝統的な技法により作られます。
当館では平成22年度に企画展「てまりの美」を開催し、
栃尾地域と日本各地のてまりを紹介しました。

栃尾の美 ～とちおてまり～

毎年、常安寺を会場に開かれるてまりまつりでは製作実演と3000個を越えるてまりの展示即売会が開かれます。 5月1日～5日 問い合わせ・栃尾観光協会（0258-51-1195）

栃尾の味

湧き水と肥沃な土に恵まれた米作りは、酒やもちなどの特産品に生かされています。
また味噌、しょうゆ、油揚げなど、昔ながらの食材が変わらぬ味で愛され続けています。

あぶらげ

栃尾と言えば、おいしい油揚げ。地元では、「あぶらげ」とよばれ、通常の油揚げの約3倍、長さ20cm、幅6cm、厚さ3cmという大きなものですが、味は意外と繊細。皮は香ばしく、中はふわっと柔らかく、特に揚げたての風味は格別です。栃尾に20軒近くあるあぶらげ屋さんはそれぞれ味に特徴があります。昼過ぎには売り切れてしまうところも多いため、午前中に買いに行くか、予約をするのがおすすめです。

とちおこしひかり

守門岳や杜々の森など周囲の豊かな水源から湧き出す清らかな水。その水で育てられた「とちお米」のおいしさは格別です。近年、低農薬有機栽培、アイガモ農法などに取り組む農家もあり、さらにおいしい米作りをすすめています。また、秋には半蔵金や田代など米作りのさかんな地域では、なめらかで伸びのよい餅が作られます。

あぶらげまつり・コシヒカリまつり

揚げたてのあぶらげや新米コシヒカリのおにぎりを味わえます。10月第4日曜日　会場：杜々の森
（問い合わせ・杜々の森名水公園「アトレとど」（0258-58-3050））

観光物産フェア　とちお自慢市

あぶらげ、地酒、和菓子、織物など栃尾の物産を展示・即売します。6月中旬　会場：道の駅R290とちお
（問い合わせ・栃尾観光協会（0258-51-1195））

栃尾美術館 周辺マップ

Detailed map of Tochio art museum

栃尾の遺跡散歩

～ 栃倉遺跡(とちくら いせき)～

栃尾地域の中央部を流れる刈谷田川右岸の段丘上に位置しています。昭和30・31(1955・56)年に栃尾市教育委員会が発掘調査を行い、縄文時代中期の竪穴住居11棟が発見されました。その床の中央には石で卵形や長方形に囲った特徴的な石組炉が築かれていました。出土した遺物には、火焔型土器を含む多量の縄文土器や石鏃・石斧などの石器類があります。栃倉遺跡の竪穴住居跡は、新潟県を含む日本海側諸県では最初の発見であり、学術的な発掘調査として記念碑的な意義をもっています。なお、遺跡は市の史跡に指定されており、復元された火焔型土器は市指定文化財です。

広域マップ

Wide area map

アクセス

- JR長岡駅大手口11番線から見附経由栃尾車庫前行きバス60分
(または同駅東口4・5番線から新榎トンネル経由栃尾車庫前行きバス45分)
- 「中央公園前」下車、徒歩15分。または終点「栃尾車庫前」下車、タクシー5分。
- JR長岡駅東口からタクシー20分。
- 関越自動車道長岡I.CからR8経由、R351で30分。
- 北陸自動車道中之島見附I.CからR8経由、R351で30分。

ご利用案内

開館時間／9時～17時
休館日／月曜日(祝日の場合は翌日)、展覧会準備期間、年末年始(12/28-1/3)
観覧料／館所蔵品展　一般200円(150円)、大高生150円(100円)、中小生100円(50円)
※(　)内は20名以上の団体料金
企画展　そのつど定めます。企画展の観覧料で全館ご覧になれます。
観覧料の免除／障がい者手帳の交付を受けた方など。詳しくはお問い合わせください。

平成24年1月31日　発行

編集・発行 長岡市栃尾美術館

〒940-0237　新潟県長岡市上の原町1-13

TEL.0258-53-6300　FAX.0258-53-6370

http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/museum/index.html